

講義名	組織心理学			授業形態	
担当教員	森上 幸夫	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

組織を研究対象とするとき、そのとらえ方は多様である。ひとつの目標のもとに人々が集まる状態をさすこともあれば、役割と地位を有する人々の関係をさすこともあり、また情報を処理するシステムとみなしたり、利益を生み出す活動を継続する主体とみなしたりすることもある。
 このように組織とは多義的な概念であり、その実態は社会や文化を背景にした複雑な問題をかかえている。この組織の問題の解決に関して、現代の行動科学の方法論と知見は重要な役割をはたしてきた。なかでも組織心理学は、産業心理学、社会心理学、応用心理学、グループ・ダイナミクス等の関連領域と連携しながら、組織の問題に関する膨大な研究成果を蓄積している。
 組織心理学では、組織の問題を多面的に理解し、その問題を社会的に解決する方法を考察する。

到達目標

組織心理学の講義においては、組織内の個人、組織と心身の健康、組織と個人の関係、組織のダイナミクス、の4つに関する各々の組織の問題に対して多様な視点から問題の本質を把握し、その問題解決の方法について記述し説明できるようになる。

提出課題

授業期間の中期と末期において、組織の問題の解決方法を記述し説明できるかを確認する課題がある。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題提出後に自己採点が可能なように正解もしくは模範解答を公表する。

評価の基準

授業回における中期の課題への回答が50%、末期の課題への回答が50%である。

履修にあたっての注意・助言他

懸念するにあたり必ずノートをとること、講義内容については常に疑問をもち、興味・関心のある事柄は講義外においても考え続け、関連する文献・情報を読み、理解を深めようとする態度が大切であると考えらる。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

「仕事とライフ・スタイルの心理学」、西川・森下 他編 福村出版 2001
 「経営組織」、金井 著 日経文庫 1999

授業計画

01. 組織心理学への導入 1 「組織心理学の概略」
02. 組織心理学への導入 2 「組織の定義と組織心理学の展開」
03. 組織内の個人 1 「個人の意欲を高める組織環境」
04. 組織内の個人 2 「個人の意欲を証明する理論」
05. 組織内の個人 3 「組織における人間観」
06. 組織と心身の健康 1 「組織とストレス」
07. 組織と心身の健康 2 「組織内ストレスの対処と燃え尽き症候群」
08. 前半のまとめ 「組織内の個人および組織における健康に関する理解」
09. 組織と個人の関係 1 「組織の規範と権威の影響」
10. 組織と個人の関係 2 「組織の多数者と少数者の影響」
11. 組織のダイナミクス 1 「組織目標とリーダーシップ」
12. 組織のダイナミクス 2 「組織内のリーダーの役割」
13. 組織のダイナミクス 3 「組織内の力関係」
14. 組織心理学の課題と展望 「組織心理学の要約」
15. 後半のまとめ 「組織と個人の関係および組織のダイナミクスに関する理解」

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

「1回目と2回目の授業後に各2時間の復習」、「3～5回目の授業前に関連資料もしくは参考文献を用いた各2時間の予習、および授業後に各2時間の復習」、「6回目と7回目の授業前に参考文献を用いた各2時間の予習、および授業後に各2時間の復習」、「8回目の授業前にそれまでの授業内容の要約作業4時間、および課題内容についての2時間の復習」、「9回目と10回目の授業前に関連資料と参考文献を用いた各2時間の予習、および授業後に各2時間の復習」、「11～13回目の授業前に参考文献を用いた各2時間の予習、および授業後に各2時間の復習」、「14回目と15回目の授業前にそれまでの授業内容の要約作業4時間」を要する。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

組織の心理的問題の解決方法を記述し説明することから、広く、深い教養を身につけて総合的な判断力や応用力を養う。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

なし。